

古川なおきレポート

横浜市議員 古川なおきの 政務調査報告

一月刊一 2010年10月15日



横浜市会で可決した抗議決議と意見書

9月28日の本会議で横浜市会は、中国政府に対して「尖閣諸島海域における中国漁船領海侵犯に関する抗議決議」を、日本政府に対して「尖閣諸島海域における中国漁船領海侵犯に関する意見書」をそれぞれ議決しました。外交や防衛は国の専権事項ですが、尖閣諸島沖での中国漁船衝突事件では、ことが領土、領海という国家の根幹に関わることなので、横浜市会としても毅然と意思表示することに多くの議員が賛同しました。

日本政府は「領土問題は存在しない」との立場を貫いていますが、もっと国際社会に対して「なぜ領土問題は存在しないのか」尖閣諸島の歴史を説明すべきだと思います。また、今回の問題での中国政府の対応は過激で、中国に対する見方が変わった方も多と思います。日本は古くから中国の文化や伝統を重んじ、経済の交流も盛んに行われていますが、領土、領海という譲歩できない問題の場合は、毅然とした態度で抗議すべきです。

お互いに主権を認め合わなければ本当の友好はありません。形だけの友好や経済的な利益が見込めるからと中国とお付き合いするのは、中国に対しても失礼だと思います。弱腰で後手に回ることなく、政府は日本の立場を中国や世界の国々に対して正々堂々と主張する外交を目指していただきたいと思います。以下に抗議決議と意見書を掲載させていただきますので、ご覧ください。

【可決された中国政府に対する抗議決議】

尖閣諸島海域における中国漁船領海侵犯に関する抗議決議

尖閣諸島は、日本が領有しており、沖縄県石垣市に属している。尖閣諸島の領有に関し、日本政府は明治18年から10年余り調査し、世界情勢を考慮しつつ、いずれの国にも属していないことを慎重に確認した上で明治28年1月14日の閣議で決定し沖縄県に編入して以来、日本人の入植が行われ、昭和15年に無人島となるまでかつおぶしの製造工場が操業し漁業や林業を営んだ経緯があり、昭和35年に当時の中国政府が発行した「外国地名手冊」には明白に日本領と記されている。

このように、歴史的にも国際的にも尖閣諸島が日本の領土であることは明白である。しかしながら、当該周辺海域においては、今年8月中旬に一日で最大270隻の中国漁船が確認され、日本の領海内に70隻程度が侵入しており、我が国の漁業者が安心して操業できないという極めて看過できない事態となっている。

このように、去る9月7日午前、尖閣諸島の久場島沖の日本領海内において、違法操業をしていた中国漁船が停船を命じた海上保安本部の巡視船にみずからを衝突させ、海上保安官の職務を妨害するという事態が発生した。よって、本市議会は、貴国漁船による領海侵犯並びに公務執行妨害に対し強く抗議し、今後このようなことが起こらないよう強く要請する。

以上、決議する。

平成22年9月28日

横浜市議会

【可決された日本政府に対する意見書】

尖閣諸島海域における中国漁船領海侵犯に関する意見書

尖閣諸島は、日本が領有しており、沖縄県石垣市に属している。尖閣諸島の領有に関し、日本政府は明治18年から10年余り調査し、世界情勢を考慮しつつ、いずれの国にも属していないことを慎重に確認した上で明治28年1月14日の閣議で決定し沖縄県に編入して以来、日本人の入植が行われ、昭和15年に無人島となるまでかつおぶしの製造工場が操業し漁業や林業を営んだ経緯があり、昭和35年に当時の中国政府が発行した「外国地名手冊」には明白に日本領と記されている。

このように、歴史的にも国際的にも尖閣諸島が日本の領土であることは明白である。しかしながら、当該周辺海域においては、今年8月中旬に一日で最大270隻の中国漁船が確認され、日本の領海内に70隻程度が侵入しており、我が国の漁業者が安心して操業できないという極めて看過できない事態となっている。

このような中、去る9月7日午前、尖閣諸島の久場島沖の日本領海内において、違法操業をしていた中国漁船が停船を命じた海上保安本部の巡視船にみずからを衝突させ、海上保安官の職務を妨害するという事態が発生した。よって、本市議会は、日本政府が国民の安全と利益を守る立場から、今後このようなことが起こらないよう、次の事項について特段の措置を講ずるよう強く要望する。

- 1 日本政府は尖閣諸島が我が国固有の領土であるという毅然たる態度を堅持し、中国政府をはじめ諸外国に示すこと。
- 2 中国政府に対し、厳重に抗議するとともに、再発防止策を求めること。
- 3 第11管区海上保安本部の監視・警備体制等の強化を図ること。
- 4 我が国の漁業者が尖閣諸島海域において安心して操業できる適切な措置をとること。

ここに横浜市議会は、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年9月28日

横浜市議会

横浜市議員 古川なおき

みなさまのご意見を
お待ちしております！

追伸：中国人初のノーベル平和賞は服役中の民主活動家である劉暁波氏が受賞しました。劉氏は妻の劉霞さんに「この賞は天安門事件のすべての犠牲者の魂にささげられたものだ」と涙を流しながら語ったといっています。今回のできごとを深く考えたいと思います。

尖閣諸島メモ

魚釣島(うおつりじま)3.82 km² 久場島(くばじま)0.91 km²。
大正島(たいしょうじま)0.06 km²。北小島(きたこじま)0.31 km²。
南小島(みなみこじま)0.40 km²。 沖の北岩(おきのきたいわ)
沖の南岩(おきのみなみいわ)、飛瀬(とびせ)、大正島は国有地、
久場島など4島は個人所有。

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
横浜銀行勤務後、衆議院議員松沢成文(現在神奈川県知事)秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少)
平成19年4月 4期連続当選
現在 平成22年 市民・消防委員会 副委員長
同 市会運営委員会 理事
自民党横浜市議員団所属
横浜市会FCキャプテン(対戦チーム募集中！)

古川
なおき
レポート

一日保育士を体験しました！

古川なおきレポート97号でとりあげた「一日保育士」を古川なおきと学生インターンが体験しました。



一日子どもたちと一緒に過ごしたことは初めての体験でした。7時30分の朝礼に短パンとTシャツで伺いましたが、「はいっ」といきなりアンパンマンスマックを渡され、自分が一気に頭を切り替えなければならない状況にあることに気づきました。子育て経験の少ない40過ぎた男が桃色のスマックを着ることは少し勇気のいることでしたが、慣れてくるとスーツより落ち着きます。子どもたちは本当にかわいいです。私は幼稚園の年中クラスを担当させていただきました。埼玉県教育委員長の松井先生が言うように、4歳児は神様の領域にいるのではないかと思いました。私も約40年ぶりのおまごっこや鬼ごっこ、かくれんぼなど、つい我を忘れて夢中になってしまい、心が童心に戻りました。子どもたちと一緒に歌を歌ったりお遊戯をしていると幼少期の思い出がよみがえり、何とも言えないやさしい気持ちになります。幼稚園や保育園の先生は、毎日子どもたちと一緒に羨ましいです。しかし、現場の先生の朝は早く昼食は5分で食べなければなりません。毎日の掃除や子どもたちのための小道具の作成、体調が悪い子への対応など、本当に忙しい仕事であることもわかりました。保育園と併設の幼稚園でしたので、幼稚園の子どもが帰ったあとは保育園へ行きました。保育園は家庭的な雰囲気でした。保育園ではほとんど見学でしたが、0歳児3人を1人の先生で対応するのは大変だと思いました。たった一日では本当の大変さはわからないと思いますが、自分にとっては良い体験をさせていただきました。現場の先生にはご迷惑をおかけしました。この場をお借りして御礼とお詫びを申し上げます。

「一日保育士体験」は、先日も市会決算特別委員会で取り上げましたが、こども青少年局長もマニュアルを作成し、積極的に導入することを答弁しました。「一日保育士体験」により親御さんをはじめ、多くの方が幼児と園で接することによって、幼児から素直な心を学ばせていただければ、もっとあたたかくやさしい社会になるのではないかと思います。

横浜市議員 古川なおき

保育園 の一日	7:30	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:30	19:00
	登園	自由遊び	おやつ	給食	散歩	外遊び	午睡		おやつ	自由遊び	降園	延長保育	

*3~5歳は午睡せず遊びます

先日、旭区内のある保育園で1日体験保育をさせてもらいました。僕は1~2歳児の担当で、体験内容としては一緒に遊ぶ、ご飯やおやつを食べる時の補助、着替えの手伝い、散歩に同行、寝かしつける、避難訓練など様々な活動でした。

全体の活動を通して、人間は赤ちゃん又は幼児の時が最も純粋な心をもっているのだと感じました。すなわち、感情表現が豊かであるということです。常に明るく元気よく過ごす点において意外にも僕たち学生や大人に失われつつある能力のように思います。もちろん、大人になれば色々な事情もあり感情を抑えなければならないときもあるでしょう。それでも、早朝の駅頭でレポートを配っている時に思うのは、通勤する人の表情が暗い人が全体的に多いということです。疲れているのだとは思いますが、そういう時にこそ幼児のような明るさを持つてほしいと思います。

偉そうなことを言っていますが、気持の持ち方次第で変えることができると思います。この変えるきっかけを得るために、僕もなおきさんと同様に体験保育をお薦めします。体験保育をしてすぐに明るくなれるかは分かりませんが、何かしら感じることはあるはず。もちろん僕自身も感じたことがあります。それは、僕たち大人の共通の仕事は「子どもの未来を守ってやること」だと感じました。僕はまだ学生ですが、社会人になってもこの気持ちを忘れずにいることで使命感も生まれ、自然と元気に活力を持てると思います。そして、子ども達の模範になるようにもっと立派な人間にならないといけないと思いました。

今回このような体験をさせてもらう機会を設けてくれた保育園の関係者の方々に感謝します。ありがとうございました。(横浜国立大学2年 男子)

「子供ってやっぱりかわいいな。」これが私の保育士体験の率直な感想です。私は年長クラスのお手伝いをさせていただきました。

私が訪問した日は運動会の練習がメインに行われていました。子供達は暑い中一生懸命に取り組んでいました。5歳の子が列を乱すことなく進み、隊列をしっかり組んで組体操をする光景はとても感動的です。もし自分がこの子供の親であったら考えるとその気持ちは一入でありましょう。

幼児期のうちからこういったことを経験することはその後の人格形成に大きく影響を与えるのではないのでしょうか。厳しい練習に耐える忍耐力、一つのことを仲間とともにやり遂げる団結力などがこの時期で養われることはとても素晴らしいことです。また教室の中で歌を歌ったり、本を読んだり、工作をしたりすることで様々な感受性も養われます。無限の可能性を秘めた状態の子供たちにこういった感性を育てていくのが幼児教育の重要なのだと思いました。

21歳となった今でも幼稚園時代のことはよく憶えているもので、辛かった鼓笛の練習や、楽しかった水泳学習、節分の鬼のお面を先生の話を聞かずに勝手に作り先生に怒られたこと、様々なことが思い出されます。そしてこうした経験からの教訓が今でも私の心の中で生きていることにとっても嬉しく思います。そして幼稚園時代の友達と今でも交友が続いており、彼らは私にとって一生の友となるでしょう。今回一緒に過ごした子供達も私と同じように、幼稚園時代の経験が一生のものとなってくれたらとても嬉しいです。元氣な子供達からたくさんパンチを受けましたが(笑)、やはり子供はかわいい！今回は貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。(中央大学3年 男子)

今回初めての保育体験をさせていただいて、やってみなければわからなかったことがたくさんありました。また、子どもの成長する瞬間を見ることができました。

私が担当したのは2歳児でした。私の想像する2歳児は、自分の身の回りのことはあまりできず、おもちゃの取り合いなどが多いというものでしたが、それはあまりにも失礼でした。というのも、子どもたちはだいたいの自分のことは自分でできるし、ほかの子を思いやる気持ちも持っていました。それでも、悪いことをすることもあります。その時が先生の出番で、毅然と、しかし感情的にならずに強く叱ります。子どもたちも、素直にそれを聞き入れていました。

子どもたちと間近で触れ合ってみて色々なことがわかりましたが、それ以上に、子どもが成長した瞬間を私は忘れることができません。ある子が昼食の時間にお味噌汁をこぼしてしまいました。そのこぼれたお味噌汁を拭いていると、先生がその子に「先生が拭いてくれたよ！ありがとう？」と問いかけました。大人同士なら、きっと決まり文句のように言っていたでしょう。しかし、その子にとってその5文字をいうことはとても大変なことだったようです。なかなか言い出すことができずに、泣き出してしまいました。先生とお話をした後、再びやってきて必死に言おうとしていました。最後にたどたどしく「ありがとう」と言って泣き出したとき、私はその子を思わず抱きしめました。胸が熱くなり、泣きそうになりました。そして、「ありがとう」という言葉が持つ言葉の重みを感じました。

このことは、私に子どもの時は持っていたら心で率直に表現する大変さ、その重みを再び思い返しました。大人になるにつれて忘れてしまいがちなものですが、決して忘れてはならないものだと思います。(早稲田大学2年 女子)

私が1日お世話になったのは、幼稚園の年少さんのクラスでした。朝バスでの送り迎えに始まり、外遊びや運動会の練習、お昼ご飯にお見送り…と、1日中一緒に過ごさせていただきました。中学生のころ授業の一環として幼稚園児と遊ぶ、という授業はありましたが、それ以来小さな子供たちと遊んだり触れ合う機会というのは、まったくといっていいほど無かったため、保育体験に行くまでは楽しみな気持ちも大きい反面、不安な気持ちも強かったです。しかし、そんな不安は教室に一步足を踏み入れた途端すぐに消え去りました。「お姉ちゃんだれ？」そんな不思議な顔をして近づいてくる子供たちに、「今日一日、みんなと一緒に遊びにきたんだよ！」と話しかけると、みんな一斉に笑顔を向け話し始めました。そのかわいさに癒されると同時に、幼稚園生はなんて素直で優しいのだろうと驚きました。それまで緊張していたことなんてすっかり忘れて、その後は一日中みんなと話したり、踊ったり、走り回ったり、砂遊びしたり…心から楽しいといえる時間を過ごせることができました。

その中でも特に印象に残っているのが帰りの会のことです。その幼稚園では、帰りにみんながあめを1つずつもらえることになっていて、それをとても楽しみにしていました。彼らにとって大切なあめなのに、私が帰るとき一人の男の子が、「お姉ちゃんにもあめあげよう！」と言い出したのです。先生が「みんなの分が減っちゃうんだよ」と言ってもみんなそれでもいいよ、とあめを渡してくれました。こんな小さな子たちなのに、大人よりよっぽど他人のことを考えられるんだと感動した瞬間でした。たった1日の保育体験なのに、普段の生活では絶対にできない体験をすることができました。幼稚園生の寛容さや優しさ、素直さに触れ、楽しかった・うれしかったというだけでなく、自分の日々の行いを考えさせられました。是非また体験に行きたいです。(明治大学2年 女子)

みんなで健康増進！& 市政について気軽に語り合いませんか？
政務調査活動の一環として「市民の皆様のご意見を」直接うかがう！

朝ウォーキング

日時：11月27(土)朝7~8時半
集合場所：こども自然公園(大池公園)正面向口

★参加される方は、当日直接、集合場所にお集まりください。